

2022年

ボートレース チャリティ基金 協力報告書

ボートレースチャリティ基金委員会

選手会口

選手会口は選手会所属のボートレーサーの皆さまから頂いたご寄付で、ハンセン病患者・回復者及びその子供たちに対する教育支援に使用させていただいています。

2003年度から2017年度まで15年間で第1次～第4次教育支援を行い、インド、ネパール、中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム7か国において、延べ5,525人が小中学校、高校、大学、専門学校へ通う事が出来ました。

現在は、第5次教育支援として（2019年度から2023年度まで）、WHOハンセン病制圧大使による訪問国等を対象とする支援活動を行っています。

収入/支出状況

2023年3月31日現在

年度	事業名	収入	支出	事業期間
2002	第1次教育支援	¥15,310,000	¥14,952,585	2003-2009
2008	第2次教育支援	¥12,585,965	¥11,947,129	2009-2013
2010	第3次教育支援	¥11,908,005	¥10,663,364	2010-2014
2014	第4次教育支援	¥15,000,000	¥15,613,005	2014-2017
2019	第5次教育支援	¥15,000,000	¥12,907,294	2019-2023
総計		¥69,803,970	¥66,083,377	

* 2023年3月31日現在選手会口残額: 3,720,593円

2022年度支援活動

第5次教育支援として、2019年度より3ヵ年計画で行ったインドの GRETNALTES という学校を通じたハンセン病回復者子女への支援を1年間延長して実施しました。この GRETNALTES には2018年に笹川陽平 WHO ハンセン病制圧大使が訪問し、実際の教育現場を見、子供達と交流し、創設者の理念に賛同し、支援が決定しました。また、2021年度に行ったネパールでのノンフォーマル教育事業の支援の延長実施を行いました。

※ノンフォーマル教育とは初等教育から高等教育までの制度化されたフォーマル教育の外側で行われる教育活動全般で、子供から成人までの特定のグループに対する学習内容を提供します。

事業名	支援額
インド・アンドラプラデッシュ州における回復者家族への教育支援	¥3,168,364
ネパールの回復者に対するノンフォーマル教育支援	¥507,830
合計	¥3,676,194

インド・アンドラプラデッシュ州における回復者家族への教育支援

支援先	GRETNALTES (グレーターテナリハンセン病治療・教育支援協会)
事業期間	2022年4月1日～2023年3月31日
支援額	¥3,168,364

アンドラプラデッシュ州には57のハンセン病コロニーがあり、厳しい偏見・差別から逃れてきた回復者と家族が生活しています。GRETNALTESは1981年に、患者の治療、リハビリ、形成手術の支援のためにハンセン病回復者が創設しました。2003年には、回復者子女に平等な教育機会が与えない状況の改善のため、学校を設立しました。現在では3歳から中学生まで約1,000名の生徒が所属し、約100名の回復者子女が在学しています。地域の生徒から授業料を集める一方、回復者子女には授業、宿泊、食事を無償で提供しています。回復者子女が教育を受けることで、将来的に定職に就き、両親をはじめとするハンセン病回復者の社会統合を促進することを目指します。

本来であれば2021年度までの支援の予定でしたが、コロナ禍のため、学校の収入が伸びず、経営困難となったため、2022年度も1年間延長して支援を行うこととしました。これまで同様、実家から離れ、寄宿して学校に通う8歳から14歳までの94名の回復者子女の寄宿費を支援しました。インドの独立記念日や聖人の生誕祭、カラズデイ、クリスマスなどのイベントに参加して学校生活を楽しみました。また、12月にはニューデリーで開催された世界人権理事会主催の「女兒の教育に関する作文コンクール」にも生徒が参加しました。

(写真：授業風景、作文コンクールの様子)



タディボーエナ・プジータ（9年生、アダーシュナガルコロニー出身）



私の祖父はハンセン病患者です。私は二人兄弟の長女で、下に妹がいます。貧困のため、両親は私の学費や書籍代やその他維持費をまかなうことができませんでした。その結果、私は勉強への興味を失ってしまい、学校に行くことさえ怖くなってしまいました。

そのような状況で、両親と相談して、通っていた学校を中退し、GRETNALTES に入学することを決めました。前の学校にいたときは勉強がとても退屈でした。でも、この学校に入ってから、学校が実施する様々な活動に良い影響を受けています。

授業料や教科書、食事を含めた寮費も無償で、この学校に来てから、勉強や学校の活動等、あらゆる面で成長できたと思います。試験でも1位を取ることができました。私は今、とても幸せです。好きな科目は社会です。将来は国家に奉仕する警察官になりたいです。

コッパナティ・サイ・マノハル（10年生、クプレム・ナガルコロニー出身）



私の祖父はハンセン病患者です。私の両親と私と弟と一緒に家族五人で暮らしています。父は画家として一家を支えています。父の収入だけでは家族を養うことが厳しい状況です。

私の弟は6年生で、父は私たち2人に教育を受けさせたいと強く願っていました。村の小さな学校では適切な教育が受けられないため、GRETNALTES のことを知った父は、学校を訪ね、経営者に会い、私が8年生に編入できるよう交渉してくれました。

私は今、10年生です。GRETNALTES では、先生始めスタッフや経営陣も、生徒を自分の子供のように扱ってくれます。私の好きな科目は英語で、将来の夢は陸軍軍医官になって国に貢献することです。

ネパールの回復者に対するノンフォーマル教育支援

支援先	IDEA ネパール
事業期間	2021年4月1日～2022年7月31日
支援額	¥507,830 (2022年度)

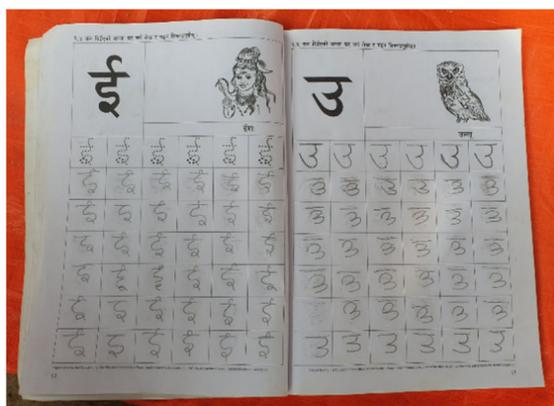
IDEA ネパールは、1993年に設立されたハンセン病回復者団体です。ネパール全体の識字率は65%と低く、中でも社会的に弱い立場に置かれているハンセン病患者・回復者やその家族の教育レベルはさらに低く、IDEA ネパールのメンバーの85%は十分に文字の読み書きができない状況です。教育を受けていないために安定した仕事に就くことができず、日雇い等の仕事で生計を立てている人も多くいます。

本事業では、これまで十分に教育を受けることができなかったハンセン病回復者の女性（特にハンセン病に感染したことによって配偶者に見放された人を優先）に再び学ぶ場を提供し、セルフスティグマを解消し尊厳ある生活を営むことができるようになることを目指し実施されました。

150名が受益者として選ばれ、基礎的なネパール語の学習を中心とした授業を行いました。また、ハンセン病のセルフケアといった自助方法や、ハンセン病問題について学んだことで、エンパワメントや社会統合に繋がるように支援しました。

当初、2021年4月から2022年3月までの事業期間を予定していましたが、新型コロナウイルス第2波流行のためにロックダウンとなり活動開始が2021年8月となったため、2022年7月まで事業を延長して実施しました。

(写真：授業風景、授業で使った教科書)





オークション他口

オークション他口は、ボートレーサーの方々からご提供いただいたグッズをオークションにかけた収益金（下記、オークション）とレース優勝賞金からのご寄付等（下記、オークション以外）から成り立っています。オークション他口では、各国のハンセン病回復者やその家族の生活環境改善や経済自立支援、ハンセン病対策や災害支援など様々なプロジェクトを行っています。

収入／支出状況

2023年3月31日現在

年度	オークション	<オークション以外> 冠レース・ボートレース関係者	収入合計	支出
2001	¥4,208,626		¥4,208,626	
2002	¥8,515,071	¥31,000	¥8,546,071	¥10,208,114
2003	¥5,061,644	¥4,455,250	¥9,516,894	
2004	¥2,610,740	¥3,084,000	¥5,694,740	¥1,332,737
2005	¥4,227,306	¥1,658,495	¥5,885,801	¥9,215,433
2006	¥3,367,947	¥3,957,578	¥7,325,525	¥611,743
2007	¥3,232,227	¥4,554,838	¥7,787,065	¥11,030,600
2008	¥3,208,877	¥4,254,410	¥7,463,287	¥3,699,397
2009	¥1,781,454	¥2,459,735	¥4,241,189	¥2,798,472
2010	¥3,109,270	¥2,643,816	¥5,753,086	¥8,100,297
2011	¥2,212,188	¥666,646	¥2,878,834	¥4,955,693
2012	¥2,340,193	¥21,113,956	¥23,454,149	¥6,973,460
2013	¥2,172,490	¥392,458	¥2,564,948	¥7,261,063
2014	¥2,351,211	¥177,242	¥2,528,453	¥14,865,894
2015	¥2,526,979	¥1,972,600	¥4,499,579	¥11,450,925
2016	¥2,619,623	¥1,490,000	¥4,109,623	¥2,701,648
2017	¥3,216,410	¥1,551,000	¥4,767,410	¥8,740,896
2018	¥3,741,709	¥1,522,000	¥5,263,709	¥4,757,320
2019	¥3,645,546	¥1,612,000	¥5,257,546	¥1,940,087
2020	¥9,226,377	¥1,612,000	¥10,838,377	¥6,251,613
2021	¥6,189,942	¥1,452,000	¥7,641,942	¥6,868,001
2022	¥5,421,772	¥1,713,200	¥7,134,972	¥8,070,469
*補填額				¥-527,947
総計	¥84,987,602	¥62,374,224	¥147,361,826	¥131,305,915

*補填額：承認予算超過分を笹川保健財団が補填したもの

*2023年3月31日現在オークション他口残額: 16,055,911円

2022 年度支援活動

未曾有の経済的ショックと社会変容をもたらした新型コロナウイルスへの対応が進展し、世界が正常化に向けて回復する中、ハンセン病当事者はコロナ禍に受けた深刻な打撃から立ち直るために懸命に努力を続けていますが、依然として厳しい状況が続いています。2022年度はバングラデシュとエチオピアで新規事業を立ち上げました。

事業名	支援額
ミャンマーの回復者組織メンバーの教育支援	¥530,122
バングラデシュメンタルヘルス対策制度化プロジェクト	¥3,445,705
エチオピア・オロミア州ハンセン病回復者緊急支援	¥4,094,642
合計	¥8,070,469

ミャンマーの当事者団体メンバーの教育支援

支援先	TLM ミャンマー（英国救らいミッション・ミャンマー）
事業期間	2021年4月1日～2022年6月30日
支援額	¥530,122（2022年度）

TLM ミャンマーは、ミャンマー初の当事者団体である MAPAL を、その設立から支援してきました。新型コロナウイルス拡大に伴う移動制限によって MAPAL のメンバーにもオンラインでの国際会議への参加の機会が多くある中、メンバーが機器を所持していないことや、デジタルの知識が不十分であるために TLM ミャンマーの支援なしでは活動が困難な状況にありました。また、英語の教育を受ける機会にも恵まれなかったため、海外の当事者団体や助成団体と直接コミュニケーションをとることや SNS で自ら海外向けに発信することができませんでした。

本事業では、12台のパソコン支給と、MAPAL のメンバーとその家族のコンピューターと英語の研修を支援しました。パソコン講習では22名がオンラインで基礎的な講習を受け、その後、13名が対面でもより進んだ講習を受講しました。また、英語については、31名がオンラインで基礎研修を受け、その後、19名が更にレベルアップした研修を受けました。これらの研修により、ハンセン病当事者団体の活動の支えとなるメンバーの能力向上に貢献することができました。

2021年2月の軍事クーデターによって、事業開始が遅れたり、地域によっては身の安全を確保するために避難の必要があったりと、事業実施には困難も伴いましたが、無事に完了することができました。

（写真：オンラインパソコン講習の様子）



バングラデシュメンタルヘルス対策制度化プロジェクト

支援先	バングラデシュ・ボグラ連合（支援団体：レプラ・バングラデシュ）
事業期間	2023年2月1日～2024年1月31日
支援額	¥3,445,705（2022年度）

ボグラ連合は2014年に社会福祉局より認可を受け、地域密着型の組織（CBO）として設立されました。ボグラ県内の12の地区に属する101のセルフ・ヘルプ・グループ（SHG）を束ね、ハンセン病当事者の声を代弁することができるよう、活動を続けています。現在、1030人（男性474人、女性556人）の会員を擁します。支援団体のレプラ・バングラデシュは、2000年からバングラデシュのハンセン病問題解決のために活動を行ってきており、ボグラ連合の創設から支援を行っています。

バングラデシュでは未だハンセン病への偏見・差別が根強く残っており、ハンセン病と診断されると、社会的に排除されたり、家族から見捨てられたりと多くの困難が伴います。特に女性への影響は大きく、うつ病や精神疾患を発症する患者が多いことから、精神的な支援の必要性が指摘されてきました。ボグラ連合とレプラ・バングラデシュは、2018年より、ハンセン病当事者の中から一定の基準を満たす人々をカウンセラー（メンタルモチベーター）として訓練し、当事者のメンタルヘルス向上に取り組んできました。

本事業では、メンタルヘルスマチベーターの家庭訪問や定期的なカウンセリングの実施、関連活動のモニタリングとデータ収集、行政や医療機関との連携などを通じて、彼らの活動を制度化することにより、支援へのアクセスを向上し、メンタルヘルスが改善されることを目指します。

これまでにオリエンテーション・ワークショップ、事業モニタリング、連合リーダー等とのミーティングを実施しました。また、スタッフとメンタルモチベーター全員が、ダッカ大学教育・カウンセリング心理学科の教授から特別カウンセリング・トレーニングを受けました。

この事業では、1,200人がメンタルヘルス問題に関する意識向上トレーニングを受け、800人のハンセン病当事者が直接恩恵を受け、150人の重度の不安・うつ病患者が専門カウンセラーによる体系的なカウンセリングを受けることを目指します。また、より専門的なメンタルヘルス支援を必要とする重度の不安・うつ病患者（30人を想定）は、専門機関に紹介される予定です。

（写真：ダッカ大学でのトレーニング）



エチオピア・オロミア州ハンセン病回復者緊急支援

支援先	ENAPAL (エナパル・エチオピアハンセン病回復者協会)
事業期間	2023年3月20日～2023年11月30日
支援額	¥ 4,094,642 (2022年度)

ENAPAL は 1996 年に設立されたハンセン病当事者団体で、エチオピア各地域に 75 の支部を持ち、全国に 2 万人を超えるメンバーを擁します。ハンセン病のリハビリ、障害予防、当事者の能力開発、教育、人権問題や差別撤廃活動、そして時には干ばつ等の緊急対応や災害対策にも取り組んできました。

エチオピアでは、各民族の武装勢力が北部ティグレ州をはじめ各地で活動を続けており、とりわけ今回支援を行うオロミア州では、2019 年よりオモロ人、アムハラ人の各武力勢力の対立が激化し各地で武装勢力による襲撃が相次いでいます。また、2020 年後半から続く干ばつによって、過去数十年で最も深刻な被害も出ています。このような大規模な問題が多く表面化していることから、政府の介入や支援が入っておらず、NGO 等支援団体も安全上の問題から活動の縮小や徹底を余儀なくされている状況です。

オロミア州のハンセン病当事者の居住地は、首都アディスアベバから 160km に位置します。2022 年 12 月に武力勢力によって襲撃され、家畜をはじめとした資産の略奪や誘拐が発生し、障害者、高齢者を含む 15 名以上が犠牲となりました。

ENAPAL ではオロミア州出身のメンバーが長年にわたる現地ステークホルダーとの良好な関係を有していることや、地理的關係や安全上の問題についても熟知していること等を活かし、本緊急支援に臨んでいます。治安の悪化により、事業の進捗に遅れが生じています。当初、5 月末までを予定していた事業期間を 6 か月延長し、状況の改善を待っています。

(写真: ENAPAL 理事メンバー。ENAPAL 事務所前にて)

